



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2023年1月8日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:6名

指導員:4名

テーマ 生きものの冬越し

春のさきがけの花、寒さに耐えているロゼット、昆虫の冬越し、雪のない地域に飛来した冬鳥といったものを探す初春の観察会です。

タワーの近くでソシンロウバイが咲いていました。蟬梅は種名に「梅」の字が入っていますが、ウメの属するバラ科ではなく、ロウバイ科の樹木です。早いものは11月から咲く株もありますが、これからが花の季節です。

大野極楽寺公園ではミヤマウグイスカグラが3輪ほど開いていましたが、まだほとんどは蕾でした。例年、ここでは12月から咲き始めて4月頃まで花が見られますが、ことしの開花はやや遅れているようです。

道路脇では地面にびたりと張りついているロゼットを何種か観察しました。ロゼット状のタンポポとブタナの葉を比べて、厚さ、生えている毛、鋸歯の形状の違いを確認しました。他にもウラジロチチコグサ、チチコグサ、スイバ、オオバコなどのロゼットが見られました。

葉の落ちたユキヤナギの枝にオオカマキリとハラビロカマキリの卵鞘が付いていました。すぐ近くにあったので両者の形状の違いをしっかりと見ることができました。卵鞘の近くには寒さで動けなくなった(既に死んでいるのかもしれない)オオカマキリの姿もありました。

冬鳥のツグミは、先月いた50羽もの群は見られず、分散したのか、数羽の群が何カ所かで見られました。川原の木の梢には数羽のアトリが止まっていた。遠いのでフィールドスコープで見ましたが、胸部の茶色がきれいでした。周りのアキニシには実がしっかり残っているので啄みに来ているのでしょう。

木曽川橋の下流に、コハクチョウの群が来ているので、138タワーパークでの観察を早めに切り上げて、車に分乗して見に行きました。

左岸の岸辺近くにコハクチョウ37羽が羽を休めており、オオバン、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カンムリカイツブリといった水鳥の姿も見られました。川面に浮かぶカモ類の数はここ数年と比べると少なめでした。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

花: サザンカ「、ベニバナトキワマンサク(少数)

鳥: トビ、オオタカ、ヒヨドリ、キシバト、コゲラ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、

アオジ、シマ、カワラヒワ、シロハラ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ジョウビタキ(声)、ウグイス(声)



(赤く色づいたスイバのロゼットを観察)



咲き始めたソシンロウバイ



ブタナのロゼット



ハラビロカマキリの卵鞘



木曽川に来たコハクチョウ